

徳島県立二十一世紀館協議会 会議録

1 日 時 平成30年12月18日(火) 14:00 ~ 15:30

2 場 所 二十一世紀館会議室

3 出席者

【委員】 10名中8名出席

小島 信子委員, 佐野 雅彦委員, 上島 秀幸委員, 郡 美都委員,
内藤 順子委員, 中山 昌子委員, 山下 徹委員, 湯浅 雅史委員

【二十一世紀館】

館長ほか, 館員7名

4 会議次第

1 開 会

2 二十一世紀館事務局挨拶

3 議 題

- (1) 平成29年度事業実績について
- (2) 平成30年度事業計画について
- (3) 「すだちくん森のシアター」について
- (4) 提言等反映状況について
- (5) その他

5 閉 会

5 会議概要

	議題① 平成29年度事業実績について 議題② 平成30年度事業計画の概要について
事務局	(資料に基づき説明)
委員	野外劇場が新しくなって屋根が設置されたが、活用の状況や利用者の意見・感想について教えて欲しい。
事務局	4月29日のリニューアルオープン以来、こけら落とし関連イベントとして8イベント、続く5月の利用促進無料キャンペーンに17団体の19イベントさらに年間を通じての利用拡大として、ファミリーコンサートやジャズ、近畿高等学校総合文化祭の第九演奏など、33イベントで活用していただいているところ。 利用者からの感想としては「屋根ができたことでとても良くなった」との声が多く、天候を気にせず利用できることや、雨天時にイベントを実施したこともあるが、小雨であれば全く問題ない。さすがに大雨の時は雨音がするため、クラシック音楽関係のイベントは厳しいかもしれないが、雨でも大丈夫。風は多少心配はあるが、図書館側に腰壁を設置しているので、横殴りの雨でもない限りは利用できるということで、利用者の皆様からは好評をいただいている。暑い寒いといった声はあるが、野外ということで御容赦いただいている。
委員	利用頻度が増えてきていると感じる。やはり雨の音は強いのか。
事務局	大粒の雨の場合は、屋根がテントの生地ということもあり、どうしてもパラパラという雨音がしてしまう。
委員	現時点のデータで構わないので、屋根設置工事を行う前の野外劇場の利用と今年度の自主事業を除いた利用について、どのくらいの伸びがあったか教えて欲しい。
事務局	自主事業を除いた貸館利用の件数については、平成29年度は年度途中から工事が入ったので貸館利用はゼロ。その前の平成28年度は3件で3日の利用だったが、平成30年度は実施予定のものも含めて30イベント。ちなみに自主事業では今年度30イベントを実施予定のため、全体で60イベントを実施予定となっている。
委員	今年度は、リニューアルオープンということで、様々な企画が実施されたと思うが、来年度についてはどのように考えているのか。

事務局 来年度予算が今まさに編成中であるが、二十一世紀館としては、こけら落とし関係のイベントはできないにしても、年間を通じた利用促進イベントは引き続き実施していきたいということで、予算要求を行っているところ。

委員 情報発信の関係で年報の最後の方を見ると、前年度実績としてサーバーごとのアクセス数について掲載されているが、例えば特定の展示会について記事を開覧したといった細かい数字はあるのか。各館で色々なイベントを実施して、それに対してホームページの方へ見に来てくれているなどか、こういう情報を出したら反響が良かったなどか、そういった形での把握はしているのか教えて欲しい。

事務局 そこまで詳細なデータについては抽出できていない。
補足すると、ホームページ上での更新ということであれば、大きなイベントごとでの更新は行っているが、このイベントはこれだけ評判が良かったというようなデータは取れていない。ただ、ツイッターでも発信をしており、現在、フォロワーが千人を超えているが、そちらの方からは「イイネ」の数等で細かく出している。同じイベントが何度も出るということはあるが、そういったところで反応を確認することはできている。これまでの経過から見ると、有名なタレントやアニメの関係になると大きくはなるが、それ以外は概ね一定の人が見ている状況になっていると思っている。

委員 細かいところまでホームページを見ていないが、文化の森ホームページはどのくらいの範囲までリンクを貼っているのか。県関係であれば、かなりの数のホームページに飛べるようになっているのか。

事務局 基本的には公的機関のサイトであれば飛べるようにはするが、どうしても民間の方になると、そちらで作成したイベントの主催者の方からいただいた内容といったところにしか飛ばないといった形になる。

委員 今年の夏に県の方でできた文化創造の審議会にも呼ばれたが、そこで委員の方から出たのが、文化の取り組みやイベントの情報を発信したいが、その手段がないといった意見だった。その時に教育委員会や県民環境部の人に話しても、うちには手立てがないとなってしまう。文化の森はきちんとしたホームページを作っており、文化の森のことを知って来てくれるお客もいて、ツイッター等で情報発信もしているので、組織の壁はあるかもしれないが、せっかく文化の森という名前なのだからもっと戦略的に、徳島の文化のポータルサイトといった役割を担えないかと思う。ここに来れば徳島の文化に関する情報を網羅できるような。公的機関が運営するので、入場料が高額なものは難しいとは思いますが例えばリンクを貼るとか色々な形で何か文化のポータルサイトに押し上げていけないかと思っている。

委員 今回の資料や年報の中で自主企画の実績は掲載されているが、貸館の催しは掲載されていない。可能な範囲で構わないが貸館の催しの例を年報の中に掲載することはできないか。貸館の催しの実績についてホームページ等で公開しているならそれでも良いが、今の年報だと自主企画の内容しか分からないように感じたので、掲載について検討してもらえないか。

事務局 イベントホールやすだちくん森のシアターといった施設それぞれの貸館利用実績のデータは持ち合わせているが、一般への公開という形は取っていない状況。

委員 個別の催しの内容でなくても、貸館施設の利用件数の実績を年報に掲載するといった形で構わないと思うので、検討して欲しい。

事務局 次回の協議会では、まとめたものを資料として配付させていただく。

委員 配付資料の平成30年度事業一覧で新規の分と継続の分を平成29年度事業一覧と見比べながら確認していたが、少し分かりにくかった。次回の協議会で構わないので新規か継続かが分かるように記載してもらいたいと思う。

事務局 次回の協議会では、当年度の新規イベントか前年度からの継続イベントかが分かるように項目を追加させていただく。

事務局 議題③ 「すだちくん森のシアター」について
(現在、制作・編集集中のPR動画(4K映像)の一部を上映)

事務局 議題④ 提言等反映状況について
(資料「二十一世紀館協議会 提言等反映状況一覧表」により前回の協議会で委員から出された提言への対応状況について説明。また、協議会の開催時期について、年度の4分の3が終了したこの時期に開催する必要があるのかとの意見に対し、
① 開催時期は変更せず、委員からの意見には速やかに対応するとともに翌年度の協議会でフィードバックの状況を説明。
② 開催時期を8月～9月に変更。配付資料を見直して前年度の事業実績を簡潔に報告し、現年度の事業計画に説明時間を多く割く形にする。
という事務局の対応案についても説明。)

委員 提言へのフィードバックの状況を出していただいたのは、非常にありがたいと感じている。また、提言への対応についても、良くやってくれているので、安心した。もっと胸を張ってPRしていても良いのではないかと思います。

正直なところ徳島県の行政サービスが懇切丁寧に説明責任が行き届いているかと言われると、そうでもないように思うので、資料の最後にあるソーラー式LED足下灯を設置みたいに、利用者からの意見にきちんと対応しているのは非常に良かったと感じている。

実施時期については、せっかく年報を作っているのは分かるし、中身を見ればとても立派なものを作ったと思うが、委員の大半が文化・芸術活動に日頃から携わっている方々なので、リアルタイムで今年度は何をする予定なのかという情報があれば、それぞれの立場からもっと意見を言いやすいのではないかと。また、こういう風に対応してくれるのなら、意見への対応が時間差なく返ってくる方がありがたいのではないかとというのが実感である。

それと予算があるのは仕方ないし人事異動もあるので、例えばここで言った話が次の協議会でとなっても、来年の4月以降も同じ様に対応してくれるかは分からないが、県の場合は4月に定期人事異動があるので、7月頃に顔合わせをしたメンバーで、年度末まで話し合いをしていけるのではと思うと、やはり開催時期を早めていただける方がありがたいと個人的には思う。

委 員

7月～8月に開催するのが諸事情で難しいため、どうしてもこの時期の開催でなければいけないというのであれば、実施できるか否かは別にして次年度の事業実施の方針について、どのように考えているのかを示していただくことはできないかと思う。協議会の場で説明してもらえれば、それが記録として残るので、次の協議会で前年度に考えていたことを検証できるし、継続性の点からも良いのではないかと思う。細かい内容まで作れないと思うが、今年度の要望を踏まえて次年度の方向性を打ち出していただけるとは思う。予算折衝を踏まえて決まることとは思うが、方向性だけでも示してもらえないか。

事務局

来年度の予算に関することは、議会に説明を行った後で、もっと言えば議会で議決された後でないと公表できないことになっている。この協議会も公開で開催されているため、議会に説明する前に協議会で予算について説明することは非常に難しい。来年度予算について公表するのであれば、時期的には2月末とか3月になる。これは教育委員会の文化の森だけでなく、県庁全体での話になるので、今の時点で来年度の予算について話すのは難しい。

委 員

特に来年度は知事選があつて骨格予算になるため、選挙が終わってから議会で全体の予算が成立することを考えると、7月とか8月に新年度の予算が出て責任を持って今年度はこういった事業を実施していくといった方針が示されてそれに対して様々な意見を出してもらえるので、開催時期を早めた方が集まる意味があるのかなと思う。

委員 ちょうど年度の3分の1が終わっている状況での色々と検討する時期ということで、まだ3分の2が残っているので、協議会の意見を踏まえながら事業を進めていくのに良い時期なのではないかと思う。

委員 私も昨年の協議会に出させてもらった時に、確かに年度の終了前というか、今年度の事業に殆ど意見が反映されない時期に開催というのはもったいないなと思ったので、先程の2案であれば7～8月に開催という案に賛成である。

御面倒ではあると思うが、年報や今年度の事業でどうなったといった資料は後で郵送してもらえれば、我々もその資料を読むことでこの意見が反映されたとか、ちゃんと実行されたといったことが分かるので、そうして欲しい。

あと予算的なものについて言えば、十数年前から自分も二十一世紀館の事業に携わっているが、昔の方がもっと予算的に東京から劇団を呼んで野外劇場で演劇の公演を行うといったことをやらせてもらったり、文化の森の主催事業でもっと実施していたように思うので、色々な事情があって予算が削減されて、こちらのせいではないと思うが、そういった予算も計上して、案として東京の劇団を呼ぶとかすれば、徳島県民がここに集まって東京でしか見られないものが文化の森に来れば見られるといった良い評判が広まって年に1回はそうした催しが開催されてといったことを提案していただければと思っている。

委員 今、予算が減らされている状況というのは分かるが、例えばイベントを1、2回減らしてでも良いものを持ってくるというのも一つの手でないかと感じている。一つの意見として考えていただければと思う。

委員 自分も最初に話をもらった時に何故この時期の開催なのかとは感じた。これまでにやってきたことの発表の場でもあると思うが、やはり年度の早い時期に開催してくれた方が、当年度の事業計画に色々な意見を反映することも可能になると思うので、時期的には6月とか7月とか年度の初めの方に開催する方が良いのかなと思う。

委員 徳島は8月が最も忙しい時期ではないかと思う。仮に8月に開催したとして委員が集まれるのかが気になる。

委員 開催時期については、文化の森全体としても二十一世紀館の企画担当の方々も少ない人数で多彩な行事を実施している状況であると見ていて感じている。その中で会議の開催時期を早めるということは、色々な資料を作るのも大変なことであると思うので、そのことも考慮しながら各委員の声も踏まえて次回開催方針を決めていただければと思う。

今回、初めて協議会で出された意見と対応をまとめていただいたが、とても良かったと思うので、今後も続けていただければと思う。

議題⑤ その他

- 委員 提言の対応状況一覧表の中で、県内主要ホテル等へのパンフレットの設置やチラシの送付を行っているとのあるが、実際に駅前のホテルへ行くと文化の森のパンフレットや催しのチラシが置いてあり、非常に良いことだと思う。それを見た県外からの観光客の人が文化の森に行ってみたいと思ってくれることにも繋がると思うので、とても良い取り組みだと感じている。
- 委員 インスタグラムやツイッターで情報発信する際、ハッシュタグをつけることができるが、文化の森からイベント情報などをツイッターで発信する際には、文化の森側で何かハッシュタグを決めて、それを付けてくれるように発信しているのか
- 事務局 ツイッターで情報発信をする際には、ハッシュタグも一緒に発信していたと思うが、具体的に、例えば「文化の森でLED」といった流行りのような感じを出すことはできていないと思う。在り来たりの検索に引っ掛かるような単語でハッシュタグを付けている状況である。
- 委員 それだとツイッターを閲覧した人が、それぞれ思ったことを書いて発信するといったことが多くなると思うので、何か統一感のあるようなハッシュタグを付けるようにすれば検索する人が情報を見つけやすくなると思うので、共通のハッシュタグを考えてもらえればと思う。
- 委員 ツイッターについてリツイートの基準はあるのか。文化の森の方でこうしたツイートにはリツイートするとか、或いはツイートは行わないことにしているとか何か基準を決めているのか。
- 事務局 基本的にリツイートは行っていない。ただ、事情によって、例えば文化の森で実施してくれるイベントの告知が主催者のツイッターであったとかいう場合にはリツイートするといったことを検討するが、公的な機関で行っていることなので原則としてリツイートはしていない状況である。
- 委員 自分はツイッターもインスタグラムもやっているが、文化の森のツイッターを見てみると、多忙な状況とは思いますが、フォロワーの数に対してリツイートの回数が非常に少ない状況があるように感じる。ツイッターを見た人からの反応をもう少し拾ってくれないかなと思っているがいかがか。
- 事務局 当然、ツイート返しというかりツイートしたら返してくれるということで、情報が広がっていくという手法はあると思うが、どうしても公的な機関ということで闇雲にあれもこれもと返すというのはできないというのが現状である。

広げる手段としては徳島県のスタチくんとか色々なところがツイッターを発信しているの、その辺りと連携しながら何か一つでも引っ掛かってくれば、情報の広がりが大きくなるのではないかと考えている。

委 員 そのことについてだが、例えば、ハッシュタグを多く付けるといった手段は取れないのか。

事務局 個人のツイッターであれば、露骨に多くの単語をハッシュタグに付けているというのも多いと思うが、どうしても公的文化施設があまりにも狙って閲覧数を増やそうという行動を取るのはいかがでしょうかというところもあるので、当たり障りのないイベントに関する単語のみを付けているのが現状である。

委 員 文化創造審議会の方でも話したが、県の方でハッシュタグ用のキーワードを作って色々な団体が文化関係の情報を発信する際には必ずそのハッシュタグを付けるといった形で、徳島県の文化に関する情報発信をどこかが責任を持って行う形にすれば良いのではないかと思います。文化に関する共通のハッシュタグとイベント名を組み合わせるといった形にして個別のイベント情報が引っ掛かるのと同時に徳島県の文化情報という大きい視点からも発信することで、情報をもっと広がっていくのではないかと考えている。

委 員 提言等反映状況の説明の中で、寒さ対策のためミュージアムショップで簡易座布団の販売を開始したと言っていたが、貸出ではないのか。全国的に見ても座布団などは劇場側で準備しておくものというのが常識である。座布団を販売しても利用者の方には買う意識がないように思う。

実際に森のシアターの座席に座ってみると、コンクリート製の座席のため、高齢者の方だと体が冷えて、最後までイベントを見たくてもトイレが近くなり途中で退席せざるを得ないといった話もあり切なく感じた。可能なら座布団はやはり劇場側で用意してもらえないかと思う。

委 員 例えばスポンサーを募って広告入りの座布団を用意してもらおうとか、或いは学校の美術部などに協力してもらって、座布団を作ってもらおうといった方法は取れないのか。

事務局 実際のところ座布団については寒さ対策ということにはなっているが、まず一義的にはコンクリートに直に座るため、特に女性の方であれば衣服が汚れるといったことがあるので、それを防ぐために導入したもの。

販売価格も150円と安く、実物を見れば分かってもらえるが簡易な座布団であるため、寒さ対策としてはどうかとも感じている。あくまでも衣服の汚れを防止する目的で使ってもらえればと思い、販売してもらっているところ。

委 員 | 以前、森のシアターへ来たときにはコンクリートの上に座ったが、売店にて簡易座布団を販売しているという情報がなかったように思う。

事務局 | 森のシアター前の掲示板には売店で簡易座布団を販売している旨の掲示物を貼っている。

委 員 | 恐らく誰も気付いていないように思う。公園や建物の入口など目立つところに情報を掲示した方が良いと思う。

委 員 | できればスポンジがもう少し多い座布団にしてもらえたらと思う。夏場でもクッション性がある方が座り心地は良いし、固いところに長時間に亘って座るのは苦しいので座布団の改善も検討して欲しい。

事務局 | 座布団についても考えてみることにしたい。

委 員 | 今回、協議会での提言等への対応状況については資料での説明があったが、文化の森へ寄せられた意見や苦情全般への対応状況について、まとめた資料はないのか。

事務局 | 二十一世紀館がある建物の入口付近にアンケートボックスを設置しており、そこに来館者からの意見や批判が寄せられるようになっている。意見や批判のうち回答できるものについては、回答を文章にして掲示する形で対応しているところ。

委 員 | それなら回答を返せる意見や批判については、対応状況の記録が残っているということになるが、そういった記録をまとめた資料があるのではないか。

事務局 | 日々寄せられる要望や苦情については、的を射たものから見間違いなものまで様々な内容のものが混ざっており、それらを統計的に整理したものは作れていない。電話での簡易な苦情・要望から、事務所で長時間に亘って苦情を言い続けるクレーマーのようなケースもあり、対応には非常に苦慮しているところ。

委 員 | 協議会の資料を見ると、イベントの実施状況が中心になっていると感じる。それ以外にも日常的な来館者への対応など、二十一世紀館の活動全般について分かるような資料もあればと思う。

事務局 | 日常的な来館者対応についても代表的なものをピックアップして、提言等の対応状況一覧の資料の中に事例を何件か掲載できないか検討し、次回の協議会の資料に反映したい。